

life style

このページでは、
障がい者の暮らしの一コマを
ご紹介しています。

活力のもととはサッカー

「ゴールが決まると気持ちいいです」とさわやかに答えるのは、調布市内にあるNPO法人わかぼの会の福祉作業所に通う30代のHさん。所属するのは「FORZA(フォルツァ)小平FC」という知的障がい者のサッカーチームです。日曜の午後、約20人の仲間が集まって体育館やグラウンドで練習。目下6月に開催される東京都の大会出場を目指して猛特訓中です。

作業所に通う平日は、図書館の本や書類を運ぶ仕事や公園清掃などを行い、ウォーキングプログラムに毎回参加するなど比較的体を使う仕事をしています。今年はそのようなHさんに変化がありました。年頭に「サッカーをがんばる」と自ら目標を立て、サッカー用のTシャツを作業所で働いた給料で購入したのです。家族や作業所スタッフにとってもうれしいできごとでした。

写真：中橋正治

FORZA小平FC(フォルツァこだいらフットボールクラブ)
<http://forzakodaira.fc2web.com/>

設立は2003年。NPO法人わかぼの会の所長・長尾英治さんが仲間とともに立ち上げた知的障がい者36人が所属するサッカーのクラブチーム。当時小平市で障がい者の相談事業を行っていた長尾さんが、ある家族から福祉作業所がお休みの週末には家で寝ていることが多く不健康で困ると相談を受けました。「自分ができるとは一緒にサッカーをすることでした」とわずか5人で練習を始めた当時を振り返る長尾さん。今では3チームを編成するほど仲間が増えました。月2回、お休みの日に調布のメンバーを送迎&指導しています。

表紙の作品は、「じごを場大好き」の陶芸製作で生まれたランタンエントです。
ちぎった粘土は台の上でコロコロしてひもにする。ひもを重くても作りの器が出来ます。
ひもを立てたらおもしろい。なんでも立てて自分の型になりました。